

そだちネットワーク部会

H28年度 活動報告



～目的～

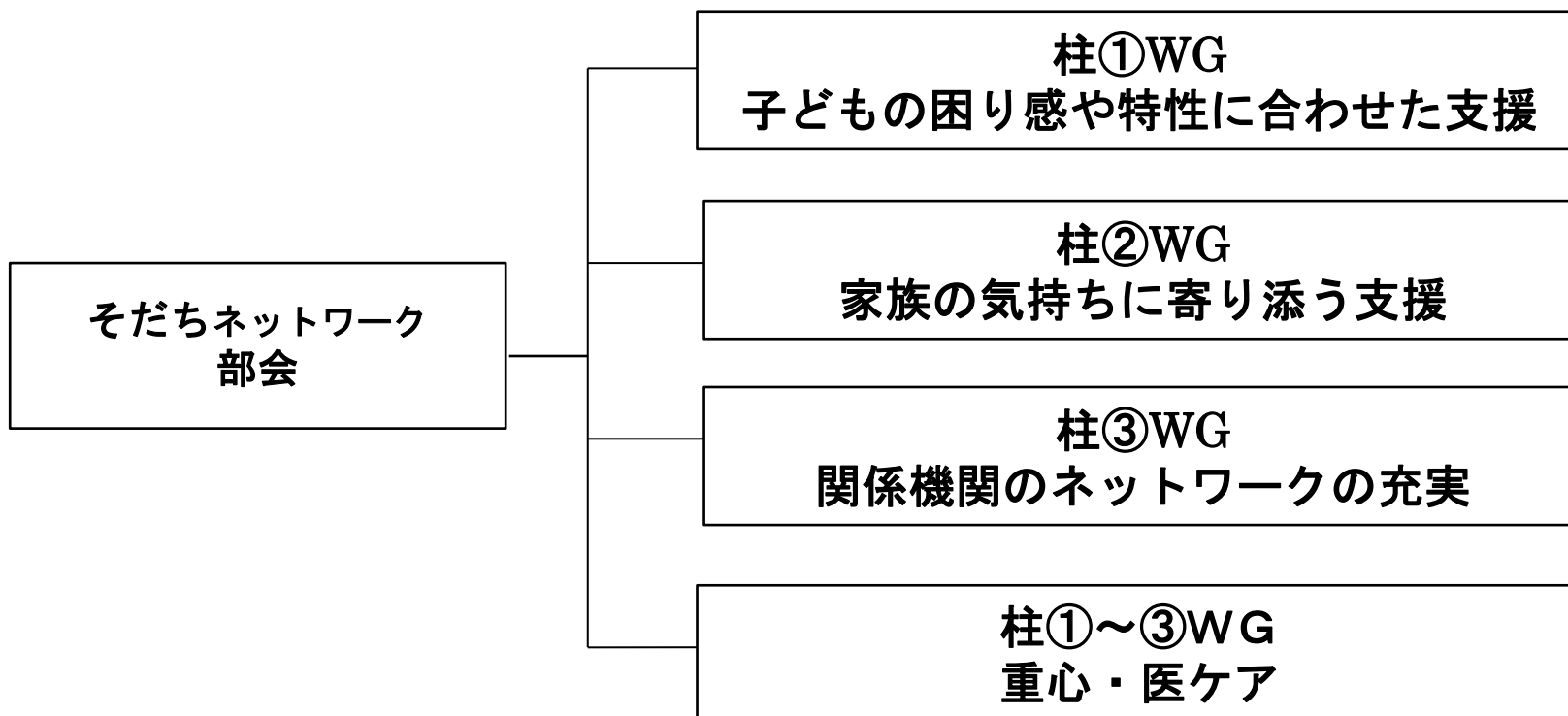
様々な障がいや困り感を持っている子ども及び家族の気持ちに寄り添いながら、子どもや家族を支える地域の関係機関の連携体制を構築していく

～3つの基本的柱～

- ① 子どもの困り感や特性に合わせた支援
- ② 家族の気持ちに寄り添う支援
(障がい受容プロセスの伴走者であること)
- ③ 関係機関のネットワーク機能の充実

活動内容

- 3つの基本的柱をもとに、今年度新たに3つのワーキンググループが発足した。



目的と活動内容

●子どもの困り感や特性に合わせた支援WG

目的：子どもが適切な支援を受ける事で、その子らしさを
発揮できる

活動内容：支援が途切れない為の方法を検討し、小学校一中学校（義務教育）をつなぐシステム作りの必要性を確認した。

●家族の気持ちに寄り添う支援WG

目的：家族がその子のいいところも苦手なところもあるのま
まに受け入れて安心して子育てが出来る

活動内容：親同士交流し、仲間作りができる場の検討や、
家族に対して子どもへの対応の仕方や、肯定的な声
のかけ方等の情報を提供できる事の必要性について
検討した。

目的と活動内容

●関係機関のネットワーク機能の充実

目的：～子どもと親が安心して生活するために～

支援者が繋がってチームを作っていくとき、どうしたらいいか分かる

活動内容：市町村別にどのような支援者が関わっているのか情報を共有した。誰が見てもつなぎ方が分かるようなものの必要性を確認した。

●重心・医ケアWG

目的：重心・医ケアを受けている子どもと家族が、日々の生活の中の「願い」（ニーズ）が満たされながら、安心して暮らすことができる。

活動内容：実態調査の結果を見ながら検討した。途中ではあるが、中野市以外での入浴サービスや、学校の送迎についての課題も多い事が分かった。更に保護者への聞き取りの必要性も確認した。

発達障がい支援フォーラム

学び方は十人十色 ～子どもに寄り添う支援＝学ぶって楽しい～

- 7/9(土)中野市豊田文化センターにて開催
- 講演: LDは僕のID～寄り添う心の大切さ～

南雲 明彦氏

(明蓬館高等学校

共育コーディネーター)



- シンポジウム:今、子どもたちのためにできること～学習障害を考える～
南雲明彦氏(明蓬館高等学校 共育コーディネーター)
渡邊和幸氏(長野県伊那養護学校教頭)
竹内雅人氏(中野小学校LD等通級指導教室)
櫻井真治氏(長野県飯山養護学校教頭)
- 当日は、スタッフ含めて約230名の参加 大盛況に終了した
- 今後の実施方法について、部会で話し合った

今後に向けて

- 子どもの困り感や特性に合わせた支援WG
小学校～中学校の支援が途切れない為のシステム作り
- 家族の気持ちに寄り添う支援WG
保護者交流や情報提供の場の検討
- 関係機関のネットワーク作りの充実WG
支援者がチームを作るためのツール作り
- 重心・医ケアWG
実態調査の課題検討 重心・医ケア児親の会の開催
- 発達障がい支援フォーラム
部会員からの意見を元に運営委員会で実施方法について検討していく